

関連資料

1 通級指導学級の教育目標

- ・言葉に関する問題や要因を正しく把握し、発音や吃音の改善、言語発達の促進を図る。
- ・言葉の発達や問題の改善を、コミュニケーション全体の中で考え、相手からの働きかけを適切に受け止め、相手に伝えようという意欲を育てる。
- ・一人一人のコミュニケーション能力を十分に発揮させ、学級集団への適応を促す。

2 教育目標を達成するための基本方針

- ・発音や吃音、言語発達の程度、発語行動上の問題、相手とのやりとりの仕方、児童の置かれている言語環境の状況などを正しくつかみ、個々の指導方針を立てる。
- ・個別指導を主たる指導形態とし、言葉の問題や性質、一人一人の発達に合った支援の方法を考え、個別指導計画に基づき指導を行う。
- ・児童の興味や関心、理解程度に合わせて受容的態度で接する。
- ・保護者と協力し、家庭で援助する手立てを共に考える。
- ・在籍学級や関係機関との連絡を密にし、共通理解を図る。

3 指導の重点

- ・コミュニケーション意欲を高める。
- ・言語の理解力や表現力を伸ばす。
- ・発語器官の機能を促進し、聴覚的弁別力を高め、正しい発音の習得を促す。
- ・話すことへの安心感を育み、吃音についての正しい理解ができるようにする。
- ・読み書きの力を高める。
- ・各教科の内容に関連させて、自立活動の指導内容を工夫することにより、在籍学級における理解を助け、学習への意欲を育てる。

4 その他の配慮事項

- ・1回の指導時間は1～2単位時間を原則とする。
- ・児童の実態に合わせて、個別指導の他に少人数のグループ指導を行う。
- ・保護者との面談の時間を設定し、児童に合った言語環境について話し合う。
- ・児童やその保護者が相互に関わり、交流することのできる場を設定する。
- ・ケース会議、教室研究、教室会議等の時間を設け、担任の共通理解を図り、協力体制を整える。
- ・連絡カード、在籍学級訪問、報告書、通信、学校訪問等で、在籍学校との連携を深める。
- ・専門家診断を実施し、児童理解を深め、より適切な指導を行えるようにする。

5 編成

(1) 通級指導学級数 (2) (2) 担当教員数 (3)

(3) 児童数・生徒数

学年 男女別		小 学 校						計	中 学 校			計
		1年	2年	3年	4年	5年	6年		1年	2年	3年	
小計	男	4	4	2	1	4	3	18				
	女	2	2	1	0	1	0	6				
合 計		6	6	3	1	5	3	24				

※週1日未満の児童・生徒数は、()内に内数として記入する。